長寿医療研究開発費　２０２３年度　総括研究報告

高齢者医療施設における退院支援のアウトカム指標および効果的な入院時情報収集の検討（23-10）

主任研究者　山本　明子　国立長寿医療研究センター　看護部（副看護師長）

研究要旨

入院期間の短縮化がすすむ中、高齢者は、入院により ADL や認知機能の低下などで退院時に入院前の生活に戻ることが困難である。しかし臨床では高齢者の退院支援を上手く行う看護師もみられることから、入院時から効率的に情報収集し、高齢者の希望する生活に速やかにつなげることができるのではないかと考えた。研究計画は第 1 段階：スコーピングレビューによる文献検討（2023 年度）、第 2 段階：質問紙作成（2023 年度）、第 3 段階：質問紙調査（2023 年度）、第 4 段階：データ分析（2023 年度）、第 5 段階：6NC 教育用プラットフォームのコンテンツの作成（2024 年度）とし研究を開始した。先行文献のレビューでは、看護師の満足度や入院期間をアウトカムとしており、高齢者を評価するアウトカムではなかった。そのため本研究の目的を、高齢者医療施設看護師の考える高齢者の退院支援のアウトカム指標を検討し、研究結果をふまえた 6NC 教育用プラットフォームのコンテンツをを作成すると修正した。2023 年度は、先行文献のスコーピングレビューから高齢者のアウトカム指標の候補となる項目は自宅退院など 9 のサブカテゴリ、＜希望する退院先＞などの 4 カテゴリに集約された（第 1 段階）。レビューの結果と、聞き取り調査で得た結果を研究班で検討後、質問紙を作成した（第 2 段階）。2023 年 10 月に国立長寿医療研究センターの倫理利益相反員会の承認を得て 2024 年 1 月 13 日～2024 年 1 月 31 日に対象施設 2 施設で質問紙調査を行った（第 3 段階）。現在、回収したデータの分析に取り組んでいる。

主任研究者

主任研究者	山本　明子	国立長寿医療研究センター	看護部

分担研究者

分担研究者	野々川　陽子	国立長寿医療研究センター	看護部
分担研究者	若山　利予	国立長寿医療研究センター	看護部
分担研究者	荒木　三千枝	国立長寿医療研究センター	看護部
分担研究者	斎藤　幸代	国立長寿医療研究センター	看護部
分担研究者	伊藤　晋作	国立長寿医療研究センター	看護部

A．研究目的

以下、修正後の内容を記載する。

本研究の目的は、高齢者医療施設の看護師が考える「高齢者の退院支援」のアウトカム指標を検討し、結果をふまえた「高齢者施設における退院支援のポイント」として発信できる6NC教育用プラットフォームのコンテンツ（e―ラーニング）の作成である。

B．研究方法

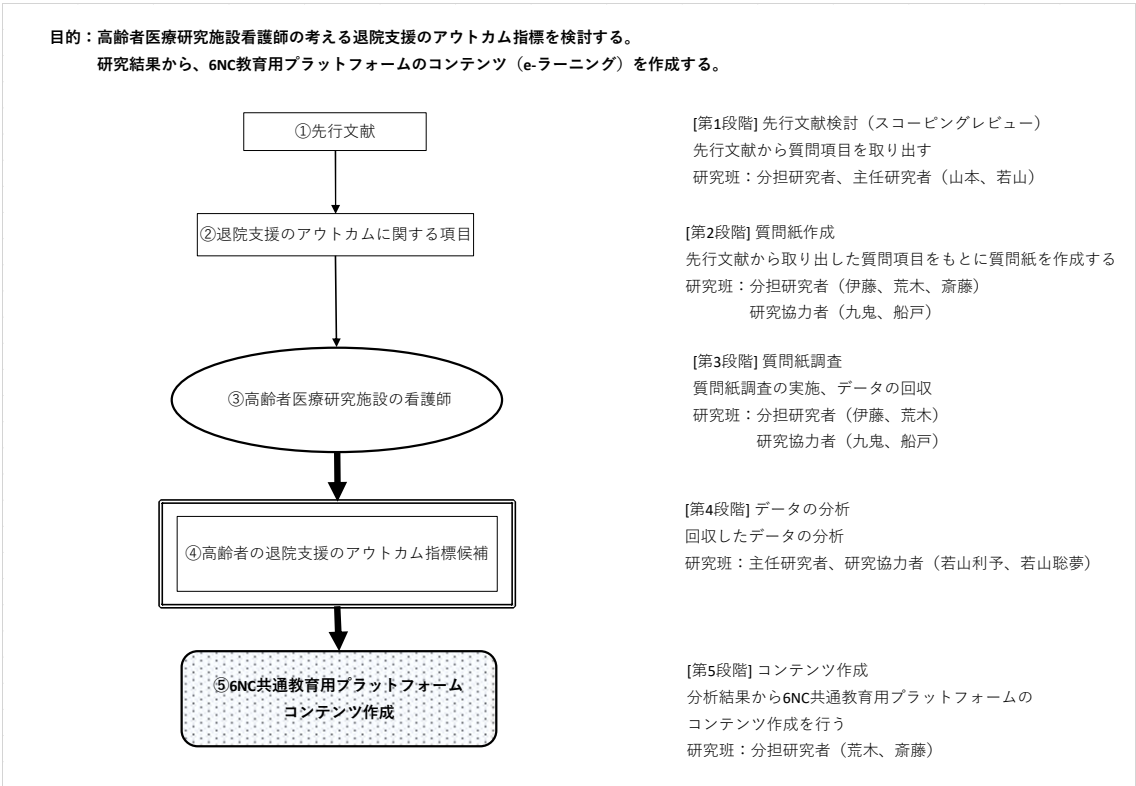


図１：研究の概念図

2023 年度

目的：高齢者医療施設の病棟看護師が考える退院支援のアウトカム指標を明らかにする。

方法：

[第 1 段階]先行文献検討

先行文献のスコーピングレビューを行い退院支援のアウトカム指標の候補項目を取り出す。

研究班：分担研究者、主任研究者（◎山本、若山）

[第 2 段階]質問紙作成

スコーピングレビューで取り出した質問項目をもとに質問紙を作成する。

質問紙作成後、プレテスト実施し研究目的に沿った内容になっているかを検討、修正する。
研究班：分担研究者（◎伊藤、荒木、斎藤）
　　研究協力者（九鬼、舟戸）
[第 3 段階]質問紙調査
作成した質問紙を使用し、高齢者医療施設（「国立長寿医療研究センター」、「東京都健康長寿医療センター」）の病棟看護師を対象に調査を実施し、データの回収を行う。
研究班：分担研究者（◎伊藤、荒木）
　　研究協力者（九鬼、舟戸）
2024 年度
目的：2023 年度に回収したデータの分析を実施し高齢者退院支援のアウトカム、効果的な入院時情報収集に関する項目の抽出。抽出した結果をもとに 6NC 共通教育用プラットフォームコンテンツを作成。
方法：
[第 4 段階]データの分析
回収したデータの分析を行う。用いるソフトは Excel、SPSS とする。
研究班：主任研究者、研究協力者（若山聡夢）
[第 5 段階]コンテンツ作成
分析結果をふまえ、病棟看護師、在宅連携看護師による高齢者の退院支援のポイントとして 6NC 共通教育用プラットフォームのコンテンツ作成を行う。
研究班：分担研究者（◎荒木、斎藤）
◎はリーダーを表す。
（倫理面への配慮）
　研究の実施にあたっては、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に沿って実施する。この研究において倫理・利益相反はない。
　研究実施にあたって国立長寿医療研究センターの倫理・利益相反委員会の承認を受け実施した（№1766）。

Ｃ．研究結果
　2023 年度
[第 1 段階]先行文献検討
　退院支援のアウトカム評価、情報収集の項目を抽出のためスコーピングレビューに取り掛かったが、退院支援のアウトカム評価が明確でないことがわかった。高齢者のアウトカム指標の候補となる項目の抽出のため、JBI Manual For Evidence Synthesis: Scoping Reviews 2020. スコーピングレビューのための最新版ガイドライン（日本語訳）に沿ってスコーピングレビュー（Arksey & O'Malley, 2005)を行った。

【スコーピングレビューの目的】

先行文献の知見から高齢者の退院支援のアウトカム指標を検討する。

1. リサーチクエスチョンの特定

リサーチクエスチョンをP：高齢者、C：病棟看護師の行う退院支援、C：入院中、病院とした（表1）。

表1：リサーチクエスチョン

P（Patient/患者）：高齢者（65歳以上）
C（Concept/概念）：病棟看護師の行う退院支援
C（Context/文脈）：入院中・病院

2. 関連研究の特定

日本と海外では、医療制度や介護保険制度など制度の違いが大きいため、日本の文献に焦点をあてレビューした。検索エンジンは、医学中央雑誌Webと最新看護索引Webを用いた。「高齢者」、「退院支援」、「病棟看護師」をキーワードにANDで組み合わせ、原著論文、看護、本文、抄録ありで絞り込んだ（表2）。発行年は収載開始～2023年とした。（最終閲覧日2023年5月16日）

表2：検索式

医中誌検索式

検索順	検索式	件数
#1	(高齢者/TH or 高齢者/AL)	1597787
#2	(移行期ケア/TH or 退院支援/AL)	20156
#3	#1 and #2	4122
#4	病棟看護師/AL	6836
#5	#3 and #4	148
#6	(#5) and (SB=看護)	142
#7	(#6) and (PT=原著論文)	110
#8	(#7) and ((FT=Y))	54
#9	(#8) and (AB=Y)	54

最新看護索引Web：1件

3. 研究の選択

選択基準：対象を高齢者（65歳以上）として病院入院中に病棟看護師が行った退院支援に関するものとして、選択基準に沿って2人の研究者が独立して選択を行った。

検索結果は医中誌Webから54件、最新看護索引Webから1件で、選択基準に沿って1次スクリーニングでテーマと抄録から、2次スクリーニングは全文を読み、計38件を除外した。2人の意見が異なる場合は協議し、採用文献は17件となった（図2）。

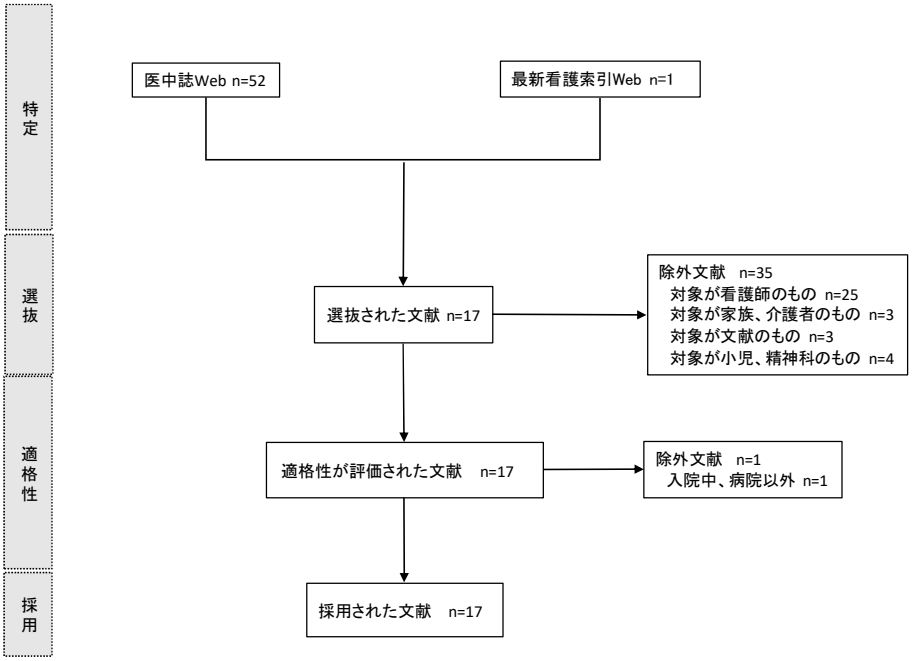


図2：PRISMA-ScRフローチャート

4．データのチャート化

研究者 2 人で協議し、著者、発行年、対象、介入方法、結果、退院支援のアウトカムのコードでデータをチャート化した（表 3）。

表 3：データのチャート化（※全 17 件のチャートから一部抜粋）

著者（年）	研究デザイン	対象	介入方法	結果	コード（退院支援のアウトカム）
岡本 佳奈（2022）	事例研究	70歳男性 心不全終末期患者	入院時から退院を見据えた生活指導。 本人の努力を認める。 自宅で生活できるように関わる。 病棟看護師・管理栄養士も同行訪問、患者と家族も参加した多職種での退院支援カンファレンスを実施。 患者、,家族の看取りという希望を実現するため、多職種カンファレンスを重ねた。	環境調整やチームで統一した対応を行い希望であった「自宅退院」ができ、「好きなものを食べて、飲んで、好きに生きたい」という、望んでいた時間を過ごすことができた。	自宅退院ができる 「好きに生きたい」という患者の望んでいた時間を過ごすこと
菊池 睦恵（2016）	事例研究	71歳男性 進行膵臓癌	合同カンファレンスの実施	合同カンファレンスを実施し、訪問診療医による往診24時間対応、入院希望は病棟で対応、訪問入浴など具体的な支援内容を確認した。退院が近くなってからも病棟看護師は妻との面談の場を多く持ち、支援内容を何度も確認した。	設定なし

5．結果の統合，要約，報告

採用文献 17 件を①年代別、②研究デザイン、③アウトカム指標の質的統合で検討した。

①年代別

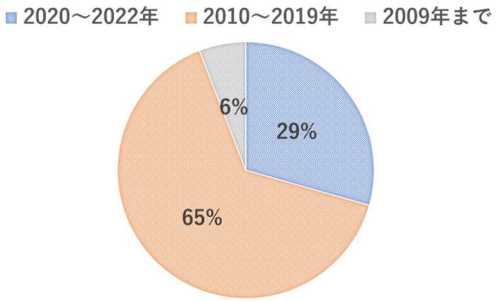
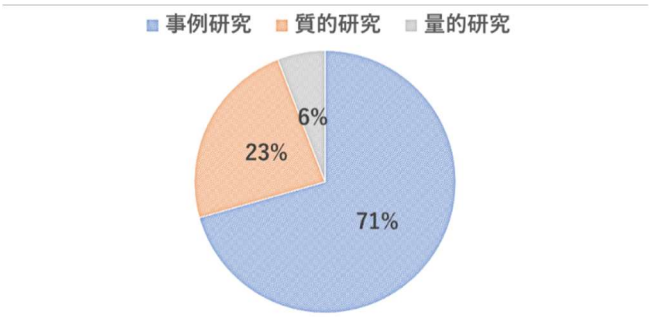


図 3：年代別結果

年代別では 2004 年～2019 年の文献が 71%、2020 年～2022 年の文献が 29%を占めた（図 3）。



②研究デザイン

図 4：研究デザイン結果

研究デザインは症例研究が 71%、質的研究が 23%、量的研究が 6%であった（図 4）。

③アウトカム指標の質的統合

表 4：アウトカムの質的統合結果

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
希望する退院先	自宅退院	自宅退院,
		自宅退院
		自宅退院
		自宅退院
		在宅療養
	治療方針を受け入れた希望する療養場所	治療方針に納得してから望む療養場所
社会資源の活用	地域サービスと社会資源との連携	退院後の生活を見据えた具体的なサービスの介入や調整
	退院後の継続支援	退院後の継続支援の実施
	看護師－患者間の協力体制	看護師－患者間での協力体制
生活に沿ったケアの自立	患者・家族のケア自立	患者・家族のケア自立度
	継続可能な生活習慣	継続可能な生活習慣の改善
希望する生活	「好きに生きたい」という希望する時間	「好きに生きたい」という患者の望んでいた時間を過ごす
	入院前の生活を取り戻そうとする姿勢	入院前の生活を取り戻そうとする姿勢

高齢者の退院支援のアウトカムの質的な統合は、13 のコードから 9 のサブカテゴリとなり、＜希望する退院先＞＜社会資源の活用＞＜生活に沿ったケアの自立＞＜希望する生活＞の 4 カテゴリとなった（表 4）。

[第 2 段階]質問紙作成

スコーピングレビューの結果をもとに質問項目を作成し、研究班で検討する中で金銭的な側面など、項目追加の必要性が浮上した。追加項目の検討のため、TCT（Transplant Coordinate Team）看護師、ケアマネージャー資格を持つ看護師、クリニカルラダーⅤ認定を受けた看護師に聞き取り調査を行い、プレテスト実施後、質問紙を作成した。

表 5：質問紙

高齢者医療施設の病棟看護師が考える
うまく行うことができた退院支援と評価するための指標について

本研究の趣旨を理解し研究参加いただける場合はチェックボックスの記入をお願いいたします。

☐ 本研究の趣旨を理解し、研究参加に同意いたします

①「うまく行うことができた退院支援と評価するための指標」として、下記の表の番号1～14の中から優先的に考える順番に番号を記入して下さい。

1位（　　）　2位（　　）　3位（　　）

②「うまく行うことができた退院支援と評価するための指標」として、上位に選んだ理由をお聞かせ下さい。

③「うまく行うことができた退院支援と評価するための指標」として、適切でないと考える指標があれば、その番号と理由をお聞かせ下さい。
適切でないと考える指標（No.　　）
理由：

④「うまく行うことができた退院支援と評価するための指標」について、右の1-5の該当する数字に○をつけて下さい。

番号	うまく行うことができた退院支援と評価するための指標	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまり思わない	全く思わない
1	患者が自宅へ退院することができる	5	4	3	2	1
2	患者が希望する療養場所（自宅以外：施設等）へ退院することができる	5	4	3	2	1
3	患者が退院後に趣味など希望していたことを行うことができるように援助する	5	4	3	2	1
4	患者が入院前の生活を取り戻そうとする前向きな意欲がある	5	4	3	2	1
5	公的な社会資源の導入と共に、インフォーマルな地域サービス（地域住民や民生委員の協力、食事の宅配サービスなど）と連携しながら患者はサポートを受けることができる	5	4	3	2	1
6	病院看護師の連携により患者は退院後も継続して支援を受けることができる	5	4	3	2	1
7	セルフケアの向上や手技の獲得に向けて、患者は病棟看護師と協力しながらケアを受けることができる	5	4	3	2	1
8	退院後の生活を見据えて、患者・家族が必要なケアを自立して実施することができる	5	4	3	2	1
9	自立を維持するための日常生活習慣を患者と家族が退院後も継続することができるように援助する	5	4	3	2	1
10	利用可能な社会制度やサービスに関して患者と家族が満足した説明を受けることができる	5	4	3	2	1
11	社会資源の公的なサービスに関して、利用内容に見合った金額（収入に占める割合）であると患者と家族が納得することができる	5	4	3	2	1
12	インフォーマルな地域サービスを受けるために患者と家族が地域のコミュニティに参加する必要があることを理解できる	5	4	3	2	1
13	入院診療計画書に記載されている予定期間内で患者は退院支援のための援助を受けて退院することができる	5	4	3	2	1
14	予定入院以外で再入院するまでの期間として、退院先で患者が30日以上生活することができる	5	4	3	2	1

◆上手く行うことができた退院支援と評価するための指標に関して、④1～14以外のご意見がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

[第 3 段階]質問紙調査

10 月に国立長寿医療研究センター 倫理・利益相反委員会の承認（№1766）を得て実施した（図 5）。

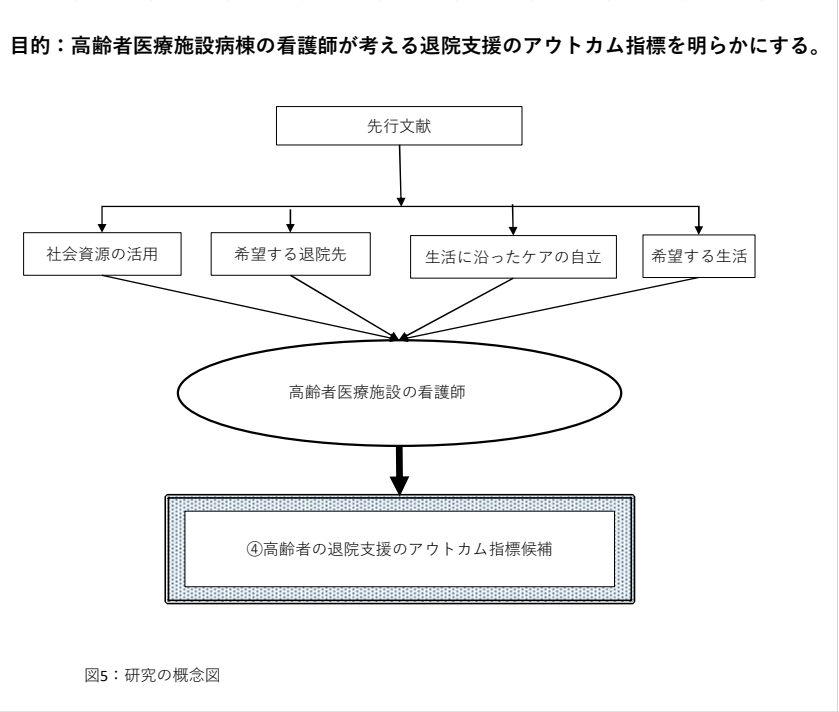


図5：研究の概念図

研究デザイン：量的研究、横断研究

研究対象：国内の高齢者医療を構築する役割をもつ施設

方法：郵送法による質問紙調査

調査期間：2024 年 1 月 15 日～2024 年 1 月 31 日

研究協力を得られた 2 施設の病棟に勤務する看護師 373 人に依頼し、252 人から回答を得た（回収率：67%）。

質問紙の回収を終了した。

D．考察

[第 1 段階]先行文献検討の考察

年代別の文献数は 2020 年以降の 3 年間で全体の 29%を占めており、高齢化が進展していることに加え、入院期間が短縮化されていること、今後はすべての高齢者を現在の病院機能で対応できないことから高齢者の退院支援の必要性が高まっていることが考えられる。そのため、高齢者に対し、入院早期から退院支援することの重要性が示唆される。

研究デザインでは事例研究が対象文献の 71%を占めた。高齢者は複雑な個人史を持ち、高齢者それぞれが個別の退院の希望を持っている。住み慣れた家に帰りたい、好きなことをしたいといった患者の退院の希望を叶えるため、看護師が苦労して退院を調整している

ことがうかがえる。複雑な個人史を持つ高齢者が人生の残された時間をどのように過ごしたいか看護師に伝え、看護師は高齢者のアイデンティティを大切に、困難と思われる内容であっても調整を図り、退院を実現していると考える。今後は、退院支援をすすめるだけではなく、人生の終焉にある高齢者の退院支援の質が重視されると考える。

分析対象にした文献は、実施した退院支援の振り返りをしている内容が多くみられ、明確なアウトカム設定がされていないものもみられた。高齢者の退院支援のアウトカムの質的統合から、高齢者の退院支援は患者の＜希望する退院先＞に退院し、＜社会資源の活用＞をしながら、＜生活に沿ったケアの自立＞をして患者の＜希望する生活＞を送ることであると示唆された。

今回、検討された高齢者のアウトカム指標は＜希望する退院先＞＜社会資源の活用＞＜生活に沿ったケアの自立＞＜希望する生活＞であった。今後は測定可能なアウトカム指標になるよう、更に検討が必要である。

[第 2 段階]質問紙作成

研究班では、文献検討で得た 9 のサブカテゴリを中心に質問項目の作成を始めたが、経済的負担やコミュニティの内容が不足しているという意見が出た。これは、高齢者は年金が収入の主になるため経済的な指標も必要と考えられる。また今後は独居の高齢者の増加も予測され、コミュニティとのつながりが重視されると考える。

[第 3 段階]質問紙調査

現在、分析中である。

Ｅ．結論

1．高齢者の退院支援のアウトカムの質的統合から、高齢者の退院支援は患者の＜希望する退院先＞に退院し、＜社会資源の活用＞をしながら、＜生活に沿ったケアの自立＞をして患者の＜希望する生活＞を送ることであると示唆された。

2．先行文献の知見を集約するだけでなく、社会情勢を考慮し高齢者の退院支援のアウトカム指標の項目を検討する必要がある。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

（主任研究者）山本　明子

1） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討：スコーピングレビュー

○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（日本ヒューマンヘルスケア学会　第 6 回学術集会 2023.9.23 ハイブリッド開催）
2） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（第 77 回　国立病院総合医学会　2023.10.20-2023.10.21）

（分担研究者）若山　利予
1） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討：スコーピングレビュー
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（日本ヒューマンヘルスケア学会　第 6 回学術集会 2023.9.23 ハイブリッド開催）
2） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（第 77 回　国立病院総合医学会　2023.10.20-2023.10.21）
（分担研究者）野々川　陽子
1） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討：スコーピングレビュー
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（日本ヒューマンヘルスケア学会　第 6 回学術集会 2023.9.23 ハイブリッド開催）
2） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（第 77 回　国立病院総合医学会　2023.10.20-2023.10.21）
（分担研究者）荒木　三千枝
1） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討：スコーピングレビュー
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（日本ヒューマンヘルスケア学会　第 6 回学術集会 2023.9.23 ハイブリッド開催）
2） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（第 77 回　国立病院総合医学会　2023.10.20-2023.10.21）
（分担研究者）斎藤　幸代
なし
（分担研究者）伊藤晋作
1） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討：スコーピングレビュー
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（日本ヒューマンヘルスケア学会　第 6 回学術集会 2023.9.23 ハイブリッド開催）
2） 高齢者における退院支援のアウトカム指標の検討
○山本明子、若山利予、伊藤晋作、荒木 三千枝、木ノ下 智康、野々川 陽子
（第 77 回　国立病院総合医学会　2023.10.20-2023.10.21）

G。知的財産権の出願・登録状況

１。特許取得

なし

２。実用新案登録

なし

３。その他

なし